AC Mains Inputs Voltage 100–240 VAC +/- 10% 50/60 Hz 190 W max

ADAM AUDIO GMBH
BERLIN, GERMANY

T +49 30-863 00 97-0
F +49 30-863 00 97-7

INFO@ADAM-AUDIO.COM

ADAM AUDIO UK
EMAIL: UK-INFO@ADAM-AUDIO.COM

ADAM AUDIO USA INC.
EMAIL: USA-INFO@ADAM-AUDIO.COM

WWW.ADAM-AUDIO.COM

61/70A

ADAM AUDIO

JPN 日本語:

安全上の重要事項
システムの設定に取りかかる前に、下記の安全上の重要事項をお読みください。本取扱説明書は今後の参照用に保管しておいてください。警告に留意し、指示に従ってください。

⚠ 注意：感電の危険を減らすため、スピーカーを開けないでください。内部にはユーザーが修理できる部品はありません。修理は有資格のサービス担当者にしてもらってください。
⚠ ヒューズは、決して指定された値やタイプ以外のものに交換しないでください。ヒューズは決してバイパスさせないでください。
⚠ 指定電圧が、使用する供給電源の電圧と一致していることを確認してください。そうでない場合はスピーカーを電源に接続しないでください。お近くの販売店か全国展開の販売代理店にお問い合わせください。
⚠ ケーブルの接続や取り外しを行う場合、またはコンポーネントの清掃を行う場合は、その前に必ずシステム全体の電源を切ってください。
⚠ AC電源から完全に切断するには、電源をコンセントから抜いてください。モニターは、コンセントに簡単に手が届くように電源の近くに据え付け、必要な場合はデバイスを容易に切断できるようにしてください。
⚠ 電源コードが踏まれたり、特にそのプラグ、コンセントおよび器具からの出口部分が挟まれることがないように保護してください。
⚠ 雷雨の発生時や長期にわたり使用しない場合は、器具をコンセントから外してください。電気機器は子供の手の届かない所に配置してください。
⚠ 本製品を雨や湿気にさらさないでください。また、決して内部を何らかの液体で濡らさないでください。また、決して本ユニットに直接液体をかけたり、こぼさないでください。液体の入った物体［花瓶など］をスピーカーの上に置かないでください。
⚠ メーカー指定もしくは本体と併せて販売されるスタンドや三脚、ブラケット以外は使用しないでください。台車に乗せてスピーカーを移動する際は、怪我をしないように気をつけ、台車の荷重のバランスが偏らないようにしてください。
⚠ 必ず点検したケーブルを使用してください。不良のケーブルはスピーカーを損傷する恐れがあります。そのようなケーブルは、様々な種類のノイズやハム、パチパチ鳴る雑音のよくある原因です。
⚠ オーディオコンポーネントの掃除に引火性または可燃性の化学製品を決して使用しないでください。
⚠ 据え付けはメーカーの説明書に従って行ってください。
⚠ 本製品を極度の高温や低温に晒さないでください。本製品は爆発性雰囲気では決して使用しないでください。
⚠ 高音圧レベルは聴覚に悪影響を及ぼす可能性があります。大音量での使用時には、スピーカーに近づかないでください。
⚠ 振動板によって磁場が生じることにご注意ください。磁気的に敏感な物はスピーカーから少なくとも0.5m離すようにしてください。
⚠ 壁との間に少なくとも100mm［4”］の間隔を確保することで十分な冷却を維持するため、スピーカーの後ろで空気が自由に流れることができるようにしてください。
⚠ 火のついたロウソクなどの裸火が使われるものは、スピーカーの上に置かないでください。
⚠ この器具は水の近くでは使用しないでください。
⚠ 掃除には乾いた布を使用してください。
⚠ ラジエーターや熱気の換気口、ストーブ、その他の［アンプを含む］発熱する装置など、熱源の近くにスピーカーを据え付けないでください。
⚠ 付属のプラグがお使いのコンセントのソケットに合わない場合は、電気技師に相談してソケットを交換してもらってください。
⚠ メーカーによって指定された取付品／付属品以外は使用しないでください。
⚠ すべての修理は有資格のサービス担当者にしてもらってください。修理は、例えば電源コードやプラグが破損したり、機器に液体がこぼれたりその上に何かが落ちたなど、機器に何らかの損傷が生じた場合や、機器が雨や水分にさらされたり、正常に動作しない場合、機器を落とした場合に必要となります。

2. ユーザーマニュアル
本書はADAM Audio T10Sサブウーファーのクイックスタートガイドです。新しくお買い求めいただいたT10Sサブウーファーをすぐにご利用される際にお役立てください。サブウーファーの性能を十分に引き出してご使用いただくには、次のリンク先の弊社ウェブサイトから正式なユーザーマニュアルをダウンロードし、内容を一読されることを推奨します：www.adam-audio.com/t-10s/manual

3. アンプとパワーサプライ
T10Sサブウーファーはアンプ内蔵となっており、外付けアンプは不要です。T10Sサブウーファーは電源が100～240V、50/60 Hzの環境で使用される限り、自動的に電圧が選択されますのでユーザーによる電圧スイッチの設定は不要です。世界中のどこの国でも、電源に接続するだけですぐにご使用いただけます！

4. オーディオ接続と音量レベルの設定
T10Sサブウーファーはバランス型やアンバランス型のミキシングコンソール及びDAW用オーディオインターフェース等に直接接続して使用することが可能です。

通常、T10Sサブウーファーは2台のアクティブ型スピーカーによってステレオ信号が再生されるステレオのモニタリングシステムに追加する形で使用します。この場合、T10Sは信号ソースとスピーカーの間をつなぐような形で接続されます。T10Sの背面パネルには2ch分のXLRおよびRCAコネクタが設けられており、+4dBuのバランス信号および-10dBVのアンバランス信号の入出力を行います（figure Aを参照）。

サブウーファーとモニタースピーカーがそれぞれ再生する信号の周波数帯域は、内蔵されたクロスオーバー回路によってコントロールされます。セッティング開始時には、クロスオーバー帯域が120Hzに設定されているようにしてください。また、位相スイッチは工場出荷状態の0°に設定してください。T10Sサブウーファーの使用を開始するには、下記の手順に従ってください。

→ 他の機器と接続する前に、T10Sサブウーファーのレベルコントロール・ノブの位置を”Min”に設定し、使用するモニタースピーカーの電源を落としてください。また、ソース信号の再生が停止されており、ソース機器の音量レベルが下がっていることを確認してください。
→ ミキサー、オーディオインターフェース、またはその他の機器からT10Sに入力する信号が+4dBuのバランス信号の場合、サブウーファーのXLR入力コネクタのLRチャンネルを使用して接続してください。
→ ミキサー、オーディオインターフェース、またはその他の機器からT10Sに入力する信号が-10dBVのアンバランス信号の場合、サブウーファーのRCA入力コネクタのLRチャンネルを使用して接続してください。
→ XLRもしくはRCA出力コネクタのLRチャンネルを使用して、ご使用されるモニタースピーカーとT10Sを接続してください。
→ すべての接続が完了したら、ソース側の機器の電源を入れてください。
→ 同梱されているパワーコードを使用してT10Sを電源に接続してください。T10Sサブウーファーには電源スイッチが設けられておりませんので、電源に接続することで自動的にスタンバイモードに入ります。スタンバイモードが起動するとフロント側のLEDが赤色に点灯します。
→ モニタースピーカーの電源を入れ、通常ご使用される音量レベルもしくは基準レベルの”0”に設定してください。
→ スピーカーシステムに信号を送っている機器の出力レベルを基準レベルもしくは通常ご使用される音量レベルに設定し、オーディオ信号を再生してください。
→ 信号が入力されると、T10Sはスタンバイモード（LED 赤点灯、出力なし）からアクティブモード（LED緑点灯）に自動的に切り替わります。
→ オーディオ信号を再生しながら、必要とする低域の再生音量が得られるまでT10Sの音量レベルを上げてください。音量レベル、クロスオーバー、および位相スイッチの設定を正しく行うことで、システムの性能を最適化することができます。詳しい方法については、T10Sの製品マニュアルを参照してください。

サブウーファーの性能を十分に引き出すため、重要なプロジェクトでT10Sを使用する前に、低域成分を含んだ音源を最低でも合計8時間ほど事前に再生しておくことを推奨します。
15分間オーディオ信号が入力されない状態が続くと、電力消費を抑えるためにT10Sは自動的にスタンバイモードに切り替わります。

T10S

ACTIVE SUBWOOFER

EN
DE
JPN
FR
ES
ZH

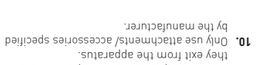
[Check out www.adam-audio.com/t10s/manual for full user manual]

QUICK START GUIDE

ADAM AUDIO

EN ENGLISH:

1. IMPORTANT SAFETY INSTRUCTIONS
Please read the following safety instructions before setting up your system. Keep the instructions for further reference. Please heed the warnings and follow the instructions.



⚠ The lightning flash with arrowhead symbol, within an equilateral triangle, is intended to alert the user to the presence of uninsulated "dangerous voltage" within the product's enclosure that may be of sufficient magnitude to constitute a risk of electric shock to persons.
⚠ The exclamation point within an equilateral triangle is intended to alert the user to the presence of important operating and maintenance (servicing) instructions in the literature accompanying the appliance.
⚠ To reduce the risk of fire or electric shock, do not expose this subwoofer to rain or moisture.
⚠ No naked flame sources, such as lighted candles, should be placed on the subwoofer.
⚠ To reduce the risk of fire or electric shock, do not block any ventilation openings. Install in accordance with the manufacturer's instructions.
⚠ Do not install near any heat sources such as radiators, heat registers, stoves, or other appliances (including amplifiers) that produce heat.
⚠ Protect the power cord from being walked on or pinched particularly at plugs, convenience receptacles, and the point where they exit from the apparatus.
10. Only use attachments/ accessories specified by the manufacturer.
11. Use only with a cart, stand, tripod, bracket, or table specified by the manufacturer, or sold with the apparatus. When a cart is used, use caution when moving the cart/ apparatus combination to avoid injury from tip-over.
12. The apparatus must be positioned on a solid surface or a stand.
13. Unplug this apparatus during lightning storms or when unused for long periods of time.
14. Refer to qualified service personnel. Servicing is required when the apparatus has been damaged in any way, such as power-supply cord or plug is damaged, liquid has been spilled or objects have fallen into the apparatus, the apparatus has been exposed to rain or moisture, does not operate normally, or has been dropped.
15. Do not expose this apparatus to dripping or splashing and ensure that no objects filled with liquids, such as vases, are placed on the apparatus.
16. To completely disconnect this apparatus from the AC mains, disconnect the power supply cord plug from the AC receptacle. The mains plug of the power supply cord shall remain readily operable.
17. The apparatus shall not be exposed to dripping or splashing and that objects filled with liquids, such as vases, shall not be placed on to apparatus.
18. The ventilation should not be impeded by covering the rear of the apparatus with items such as newspapers, table-cloths, curtains, etc.;
19. Apparatus may be used in moderate climates
20. Protective earthing terminal.

2. MANUAL
This is the T10S Quick Start Guide, which is designed to get you up and running with your new ADAM Audio T10S subwoofer as quickly as possible. To get the most out of your new ADAM Audio subwoofer, we recommend you read the complete user manual, which is available for download from our website: www.adam-audio.com/t10s/manual.

3. AMPLIFICATION AND POWER SUPPLY
The T10S subwoofer does not require external amplification, thanks to its built-in amplifier. Because the T10S automatically accepts AC mains voltages ranging from 100 V to 240 V, at 50 and 60 Hz, you don't have to fuss with selecting a correct voltage switch setting for safe operation. No matter where you work in the world, just plug in and go!

→ Now, connect your monitors to the T10S outputs via either the male XLR or RCA output connectors for each left and right channel.
→ After all signal connections are set up, turn on the equipment feeding them.
→ Now, connect the T10S to the power grid using the provided power cord. The subwoofer does not have a power switch and will power on instantly, entering standby mode that will be indicated by the front LED turning red.
→ Switch on your monitors and set them to your usual level or nominal 0 volume mark.
→ Set the output level controls, if any, on the equipment feeding your speaker system to their nominal level or to where you normally set them and play audio.
→ Upon signal input, the T10S will go from standby mode to active mode (green LED) or to output.
→ While playing audio, raise the level setting on your T10S to attain the low-end volume you desire. To optimize the system's performance, please refer to the T10S' manual for guidance on level, crossover and phase settings.
→ See figure A.

4. AUDIO CONNECTIONS AND LEVEL SETTINGS
The integrated crossover manages the frequency range of the audio subwoofer to be played through your T10S at a decent listening level for a total of at least eight hours before using them on a critical project.

Please note, that for optimum performance, it is suggested to play program containing no signals exceeding -10 dBV nominal input levels, respectively.

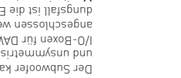
→ Before making any connections to your T10S, make sure the subwoofer's Level control knob is set to the "Min" position and both connected monitors are powered off. Also make sure the signal source is turned off and its output level controls, if any, are turned down.
→ If you'll be sending balanced +4 dBu analog audio from your mixer, I/O box or other equipment to your T10S, use the input connectors.
→ If you'll be sending unbalanced -10 dBV analog audio from your mixer, I/O box or other equipment to your T10S, use the subwoofers' left and right channel RCA input connectors.

After 15 minutes with no signal incoming, the T10S will automatically enter standby mode again to reduce power consumption.

Nach 15 Minuten ohne Eingangssignal wechselt der T10S automatisch in den Standby-Modus, um den Stromverbrauch zu reduzieren.

DE DEUTSCH:

1. WICHTIGE SICHERHEITSHINWEISE
Bitte lesen Sie die Sicherheitshinweise, bevor Sie Ihren neuen Subwoofer zu Ihrem Heimkino einrichten. Bewahren Sie die Anleitung zur Referenzzwecken auf. Bitte beachten Sie die Warnhinweise und befolgen Sie die Anweisungen.

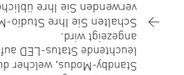


⚠ Achtung: Um defekt einer Stromschläges zu vermeiden, öffnen Sie den Subwoofer in keinem Fall. Es befinden sich keine vom Anwender zu wartenden Bauteile im Gehäuseinneren. Wenden Sie sich in Problemfällen an qualifiziertes Service-Personal.
⚠ Ersetzen Sie niemals Sicherungen durch Typen anderer Bauart oder mit anderen Spezifikationen. Überbrücken Sie niemals Sicherungen.
⚠ Stellen Sie sicher, dass sie auf dem Produkt vermerkte Spannung mit der lokalen Netzspannung übereinstimmt. Andernfalls schließen Sie den Subwoofer auf keinen Fall! Wenden Sie sich lattesten bitte an Ihren Fachhändler.
⚠ Schalten Sie immer das gesamte System aus, um das Gerät vollständig von Strom-zu trennen. Der Subwoofer sollte in der Nähe einer gut zugänglichen Steckdose aufgestellt werden, um das Gerät bei Bedarf vom Stromnetz trennen zu können.
⚠ Schützen Sie das Netzkabel vor Beschädigungen, besonders an den Steckern, Steckdosen sowie an der Nebenstelle am Subwoofer.
⚠ Trennen Sie dieses Gerät bei Gewitter oder bei längerer Nichtbenutzung vom Stromnetz.
⚠ Stellen Sie elektrische Geräte nicht in der Reichweite von Kindern auf.
⊘ Setzen Sie den Subwoofer niemals Regen oder Feuchtigkeit aus. Zudem dürfen keine Flüssigkeiten in das Gerätinnere gelangen oder auf die Gehäuseoberfläche gespritzt oder aufgetragen werden. Bitte platzieren Sie keine mit Flüssigkeiten gefüllten Gegenstände auf dem Subwoofer.
⊘ Verwenden Sie an Sender, Sativ oder Heftlaufen, die vom Hersteller empfohlen werden. Falls Sie den Subwoofer an einem Rollwagen bewegen, äussen Sie besonders vorsichtig vorgehen, um Verletzungen zu vermeiden. Achten Sie darauf, dass der Wagen nicht überladen wird.
⚠ Verwenden Sie nur geprüfte Kabel. Defekte Kabel können Ihre Geräte schädigen und sind häufig Ursache für Störgeräusche.
⚠ Verwenden Sie niemals brennbare oder ätzende Chemikalien.
⚠ Setzen Sie den Subwoofer niemals extrem hohen oder niedrigen Temperaturen aus.
⚠ Betreiben Sie dieses Produkt niemals in Umgebungen mit erhöhter Explosionsgefahr.
⚠ Hohe Schallduckpegel können den Gehör schädigen! Halten Sie daher ausreichend Abstand zum Lautsprecher ein, wenn Sie im Maximalbetrieb arbeiten.
⚠ Bitte beachten Sie, dass die Schallwandler im Magnetfeld erzeugen. Magnetisch empfindliche Gegenstände sollten Sie deshalb in einem Mindestabstand von 0,5 m von den Lautsprechern entfernt aufbewahren.
⚠ Sorgen Sie durch einen Abstand von 10 cm [4“] zur rückseitigen Wand für eine ungehinderte Luftzirkulation, um eine Kühlung zu gewährleisten.
⚠ Stellen Sie keine Kerzen oder andere Gegenstände mit offener Flamme auf den Subwoofer.
⚠ Berühren Sie den Subwoofer nicht in der Nähe von Wasser.
⚠ Verwenden Sie zur Reinigung ein trockenes Tuch.
⚠ Stellen Sie den Subwoofer nicht in der Nähe von Wärmequellen wie Heizkörpern, Heißluftöfen, Öfen oder Verstärkern auf.
⚠ Überlassen Sie alle Wartungsarbeiten an qualifiziertes Fachpersonal. Eine Wartung wird notwendig, wenn das Gerät in irgendeiner Weise beschädigt wurde.

2. WAS IST EIN QUICK-START-GUIDE?
Dies ist die Kurzanleitung zum T10S, die so gestaltet ist, dass sie Ihnen T10S bestmöglich nutzen können, empfehlen wir Ihnen, die komplette Bedienungsanleitung in das Gerätinnere Website heruntergeladen werden kann: www.adam-audio.com/t10s/manual

3. VERSTÄRKER UND STROMVERSORGUNG
Der T10S hat einen eingebauten Verstärker und benötigt keinen externen Verstärker.
Der Subwoofer stellt sich automatisch auf Wechselstromspannungen von 100 V bis 240 V bei 50/60 Hz ein.

→ Stellen Sie den Stromversorgung des T10S mit dem Stromkabel her. Der Subwoofer besitzt keinen Ein-/Aus- Schalter sondern wird automatisch eingeschaltet, sobald eine Stromversorgung hergestellt wurde. Dabei geht der T10S sonzhst in den Standby-Modus, welcher durch eine rot leuchtende Status-LED auf der Geräteront anzeigt wird.
→ Schalten Sie Ihre Studio-Monitore ein und verwenden Sie Ihre übliche Einstellung oder die Null-Position für die Lautstäke.
→ Starten Sie nun das Audiowiedergabe und Signalen. Die Lautstäke an der Signal-quelle, sofern vorhanden, bis zum Nominal-Pegel oder darüber einstellen.
→ Sobald ein Eingangssignal anliegt wechselt der T10S automatisch von Standby-Modus (LED rot) in den normalen Betrieb (LED grün).
→ Erhöhen Sie während der Audiowiedergabe die Lautstärke des Subwoofers mittels Levelein-stellung auf dessen Rückseite, bis der gewünschte Pegel im Tiefbereich erreicht ist. Um die Leistungsfähigkeit Ihres Systems voll auszuschöpfen, informieren Sie sich bitte über die verschiedenen Einstellungs-möglichkeiten, die in der Bedienungsan-leitung ausführlich beschrieben werden. Für eine optimale Performance empfehlen wir, Monitore und Subwoofer aus ein-und-demselben Hersteller zu benutzen.



→ Schalten Sie die Signalquelle ein, wenn die Signalkabelverlegung vollständig hergestellt wurde.
→ Stellen Sie den Stromversorgung des T10S mit dem Stromkabel her. Der Subwoofer stellt sich automatisch auf Wechselstromspannungen von 100 V bis 240 V bei 50/60 Hz ein.
→ Dabei geht der T10S sonzhst in den Standby-Modus, welcher durch eine rot leuchtende Status-LED auf der Geräteront angezeigt wird.
→ Schalten Sie Ihre Studio-Monitore ein und verwenden Sie Ihre übliche Einstellung oder die Null-Position für die Lautstäke.
→ Starten Sie nun Audiowiedergabe und Signalen. Die Lautstäke an der Signal-quelle, sofern vorhanden, bis zum Nominal-Pegel oder darüber einstellen.
→ Sobald ein Eingangssignal anliegt wechselt der T10S automatisch von Standby-Modus (LED rot) in den normalen Betrieb (LED grün).
→ Erhöhen Sie während der Audiowiedergabe die Lautstäke des Subwoofers mittels Levelein-stellung auf dessen Rückseite, bis der gewünschte Pegel im Tiefbereich erreicht ist. Um die Leistungsfähigkeit Ihres Systems voll auszuschöpfen, informieren Sie sich bitte über die verschiedenen Einstellungs-möglichkeiten, die in der Bedienungsan-leitung ausführlich beschrieben werden. Für eine optimale Performance empfehlen wir, Monitore und Subwoofer aus ein-und-demselben Hersteller zu benutzen.
→ Benutzen Sie die RCA-Eingänge für den linken und rechten Kanal, wenn Sie die T10S mit unsymmetrischen -10 dBV Au-dio-Signalen gerätan verwenden möchten, und schließen Sie die passenden Kabel entsprechend an.
→ Benutzen Sie die XLR-Eingänge für den linken und rechten Kanal, wenn Sie die T10S mit symmetrischen +4 dBu Audio-Signalen verwenden möchten und schließen Sie die passenden Kabel entsprechend an.
→ Benutzen Sie die XLR-Eingänge wenn Sie den T10S mit symmetrischen +4 dBu Audio-Signalen verwenden möchten und schließen Sie die passenden Kabel entsprechend an.
→ Benutzen Sie die RCA-Ausgänge des Subwoofers an. Beachten Sie die korrekte Zuordnung des linken und rechten Kanals.

Quick_Start_Guide_T10S_DINA3_Nutzen.indd 1
08.04.19 21:46